

モダニティの想像力

文学と視覚性

モダニティの想像力と題されたこの著は、夏目漱石、樋口一葉、小林多喜二、芥川龍之介、多和田葉子といった近・現代作家、さらには旅行記に日本美術史、往年のハリウッドのスター女優等、きわめて多岐にわたる。こうした多様な対象をつなぐ糸が、近代＝モダニティ、視覚性、情動、文

学的想像力という概念である。ならば、これらの概念はどのように結びつくのか。

さるトル、ベルクソン、ド

ウルーズといったフランス

の哲学者の言を援用して展

開される剣呑な議論を私な

が伴われる限り実は身体に

基盤を置く運動の一種と捉

りに咀嚼して語れば以下の

ようになる。近代は、視覚

の優位の時代である。その中

で映画という文化装置は、

されたこの著で扱われるの

は、夏目漱石、樋口一葉、

小林多喜二、芥川龍之介、

多和田葉子などだ。そしてこの情動は、た

いた近・現代作家、さら

には旅行記に日本美術史、

往年のハリウッドのスター

女優等、きわめて多岐にわ

たる。こうした多様な対象

をつなぐ糸が、近代＝モダ

ニティ、視覚性、情動、文

学的想像力という概念によ

り、より直接的に人間の情

動に訴えかけるものだから

だ。そしてこの情動は、た

とえば落涙、

哄笑、心拍数

の増加といった身体的変化

を通じて表される点で人間

の身体運動に基盤を持つも

のだ。文学作品を読み、そ

れ、特に人間の経済活動も

な読みの実践である。使われたものも含む漱石の

的想像力と呼び、それが他

者への弛まぬ関心に由来す

るものである点で、近代社

会について考へ、かつそこ

で生きる上で重要なものだ

とする。

情動を重視する中川の立

場は、今日、認知心理学的

「安子」という作品を、そ

れが書かれた当時では考え

た不可能性の可能性といつ

た不可能性の可能性といつ